企画・制作　読売新聞社広告局

広告

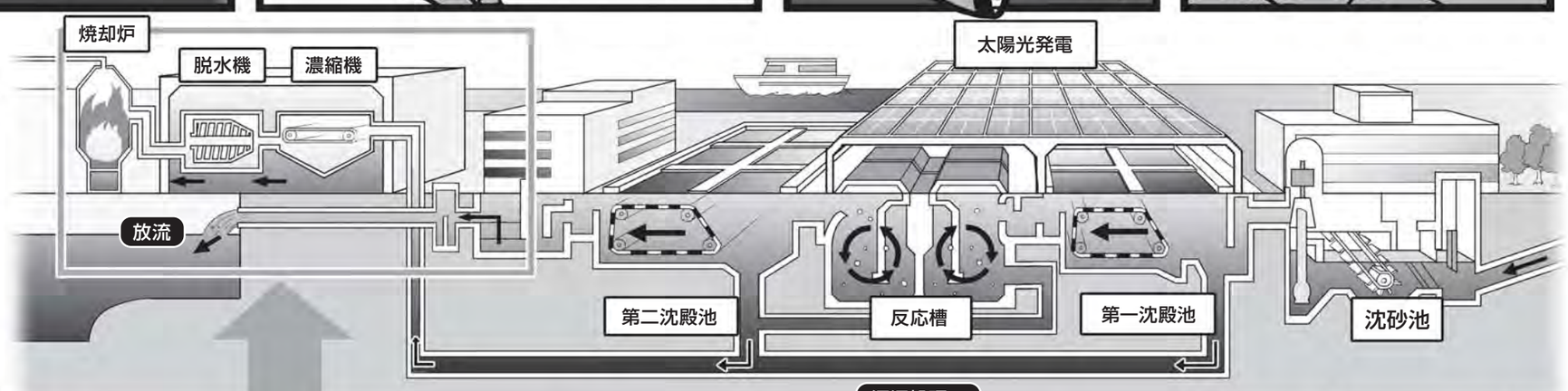
東京下水道物語（ストーリー）

2018 TOKYO SEWAGE ODYSSEY

汚泥処理&資源利用の巻

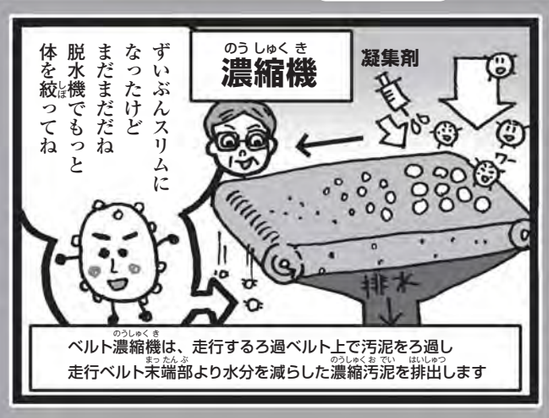
ある日、水再生センターにやってきた水の精「スイ太クン」。背負った汚れやゴミ、土砂を落としてもらってスッキリしたようですが、落とされた汚れ（汚泥）などはその後、どうなるのでしょうか？ また、きれいになった水や汚泥の利用はどのように？ “汚れた水をきれいにする”という私たちの暮らしに欠かせない役割を担っているのに、普段は目につかず、あまり意識されることのない「下水道」。その驚くべき秘密に迫ります。

ビルのトイレ用水、地域冷暖房の熱源水、水の流れが少ない川に放流して清流復活等にも利用しています

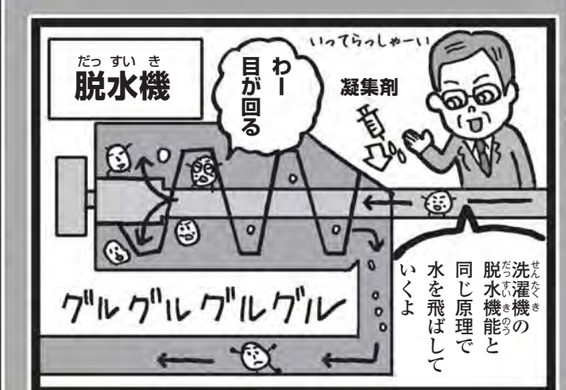


汚泥処理へ

沈殿池で発生した汚泥が濃縮・脱水・焼却と処理されるにつれ容積が小さくなるとともに有害な微生物が安全に処理されます
濃縮前の汚泥容積を400とすると、濃縮後133、脱水後16、焼却後の灰は1になります



ベルト濃縮機は、走行するろ過ベルト上で汚泥をろ過し走行ベルト末端部より水分を減らした濃縮汚泥を排出します



MESSAGE

充実した設備で快適な生活と環境を実現

先進的な技術を活かして安全・安心で快適な生活を支えます。

東京都下水道局
局長　小山 哲司 氏

下水道は、家庭や事業所などの都市活動から排出される汚水をきれいにして川や海に戻しています。また、雨を速やかに下水道管に取り込んで街を浸水から守るなど、お客さまの安全を守り、安心で快適な生活を支える重要な役割を担っています。東京都では20か所の水再生センターで1日約545万㎥の汚水を処理し、水循環を形成しています。処理した水は、1日約10万㎥を再生水としてトイレや清流復活用水に利用します。汚水処理で発生する汚泥は焼却し、その熱を利用して発電を行っています。下水の処理には様々な先進的取組みが行われています。

信頼性の高い設備を使うことがポイントです。

一般社団法人
東京下水道設備協会
会長　片岡 啓治 氏

都下水道局には、ポンプ、送風機、電気設備や、様々な情報を検知し機器を操作・制御する監視制御設備、停電しても各機器を運転できる非常用発電機もあります。

水再生センターには汚水から汚濁物質を沈殿分離、消毒して川や海に戻す設備があり、沈殿した汚泥は焼却処理します。また、処理した水を一層きれいにしてトイレ用水などに利用、汚泥焼却の廃熱を利用して発電するなど、資源利用にも努めています。ポンプでは浸水防止、焼却設備等では地球温暖化防止のために様々な技術を導入しています。これらの設備の多くを当協会会員が納入しています。

TSFA

一般社団法人
東京下水道設備協会

アクアインテック株式会社／株式会社石垣／岩尾磁器工業株式会社／株式会社荏原製作所／株式会社クボタ／三機工業株式会社／株式会社神鋼環境ソリューション／水ing株式会社／住友重機械エンバイロメント株式会社／株式会社タクマ／月島機械株式会社／株式会社電業社機械製作所／東芝インフラシステムズ株式会社／巴工業株式会社／株式会社酉島製作所／株式会社西原環境／株式会社日立製作所／日立造船株式会社／前澤工業株式会社／三菱化工機株式会社／三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社／三菱電機株式会社／株式会社明電舎／メタウォーター株式会社（五十音順）